

積極的な選択をめざして

—図工科「もようをつくろう」の実践から—

藤村佳令

1 積極的な選択について

学校生活は、基本的に一定のルールに則って進められている。登下校、時間割、学習中のきまりなど、児童の判断によって変更できる性質のものではない。一定のルールのもとに毎日が成り立っているからこそ、児童は見通しをもった学校生活を送ることができるし、落ち着いた態度で学習することもできる。しかし、児童にとって全てが受動的であってはならないのは当然のことである。本学級の目標である「生活力のある児童」を考えると、受動的な態度の中からは決して育成できない。能動的に活動できる場を、できるだけ多く学校生活の中に仕組んでいくことによって可能になると考える。また、児童が興味や関心を持つ活動だけではなく、自ら考え、選択・決定していける場を多くの活動の中に設定していく必要性を感じる。児童のそれまでの経験をもとに選択するという学習が、生活力の向上をもたらすのではないだろうか。

本学級では、児童の積極的な自己選択を期待していくために、「なぜ、これを選んだのか」という一人一人の選択行動の意味づけを重視している。児童の選択行動を考えることにより、児童の実態そのものを捉えなおし、変容を感じ、支援のあり方を改めていくことができる。これを繰り返すことにより、児童の積極的な活動を促し、生きる力へとつなげていくことができると考える。

2 指導事例「もようをつくろう」

(1) 単元について

装飾に関わる学習を、児童はいくつかの単元を通じ経験してきている。色紙を切り（破り）、糊で貼って作った鯉のぼりや服。野菜を使用し、スタンプングして作った腰みの。絵の具を塗ったり吹いたりして作った太鼓の側面。児童により装飾をすることへの取り組み方は違っており、自己のイメージを表現することを楽しんだり、装飾の技法そのものを楽しんだりと様々である。しかし、いずれの装飾も、使用する道具や技法については指導者の提示によるものであり、その中で児童はそれぞれの作品に取り組んでいった。

本単元では、模様づくりの発展として「おまつり」の幟づくりに取り組む。前時（第三次）までの模様づくりの学習を振り返ることにより、幟につけたい気に入った模様を児童自らが決定していけるようにしたい。そのために、模様づくりの技法やそれに必要な道具を児童が主体的に決定できるようにしていきたい。

(2) 児童の選択の実態と集団への関わりとの関連、および支援

本学級では、次の表において各児の「選択についての実態」（左）と「集団への関わり」（右）についての段階を見極め、左と右を線で結んだところにある「支援」が、その児童に最も適したものであると考えている。学習を始めるにあたり、各児の実態を見つめなおし、「支援」を明確にした上での取り組みが必要であると思われる。

<選択についての実態>

- 偶然手にした方を選んでい
る
- 好き、嫌いの好みの視点が
明らかになって選んでいる
- 友だちや指導者の模倣に
よって選んでいる
- 友だちや指導者の活動を見
て見通しをもった方を選ん
でいる
- 過去の経験から見通しの持
ちやすい方を選んでいる
- 自分にとって乗り越えなけ
ればならない課題の有無で
選んでいる

<支 援>

- ・児童が好んでいるものを
選択肢にする
- ・選択肢のイメージを持つ
ことのできる具体的な手
がかりを示す
- ・模倣できる場を多く設定
する
- ・児童が特に好んでいる活
動の中での選択場面を設
定する
- ・過去の類似の体験をイ
メージすることができる
具体的な手がかりを提示
する
- ・児童が課題と捉えている
ことについて課題達成ま
での見通しを持つことが
できるような具体的手が
かりを提示する

<集団への関わり>

- 指導者と一緒に活動をす
る
- 指導者の言葉かけで活動
をする
- 友だちの動きを手がかりに
活動する
- 集団での活動の仕方がわ
かって友だちと関わりなが
ら活動する

上の表より、各児に対する支援の方法を次のように考える。

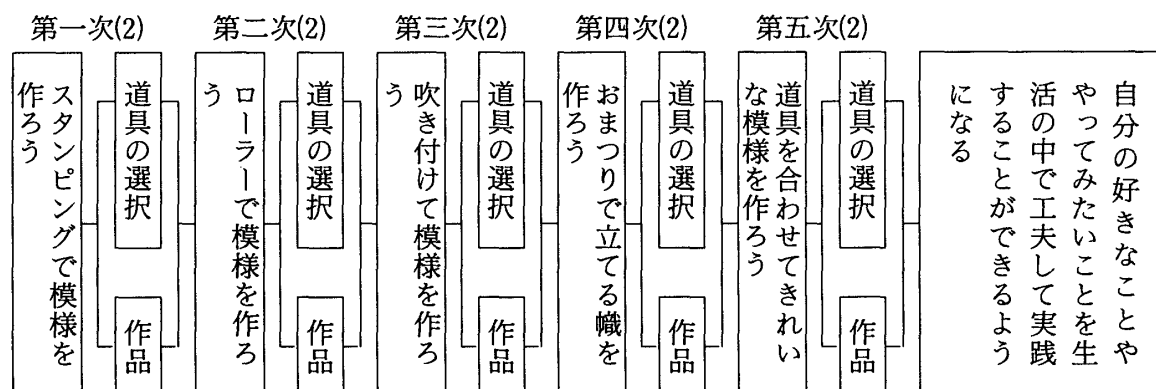
④	児童が特に好んでいる活動の中での選択場面を設定する。
⑤	過去の類似の体験をイメージすることができる具体的な手がかりを提示する。
⑥	過去の類似の体験をイメージすることができる具体的な手がかりを提示する。
⑦	児童が特に好んでいる活動の中での選択場面を設定する。
⑧	過去の類似の体験をイメージすることができる具体的な手がかりを提示する。

(3) 指導目標

- ① 模様づくりを楽しむことができるようにする。
- ② 技法によりできあがる模様の違いがわかり、作ってみたい模様を選択することができるようにする。

③ 模様のできあがりイメージして、技法やそれに必要な道具を選択することができるようにする。

(4) 指導内容と計画



第一次から第三次までは、3m×3mの障子紙を使用し、共同製作の学習形態で取り組んだ。第一次のスタンプでは、野菜版による型押しをした。野菜は、「レンコン、サツマイモ、ニンジン、ゴボウ、ピーマン、シシトウ」を使用した。第二次のローラーでは、円柱形のもの球形のもの2種類のローラーを使用した。吹き付けでは、霧吹きを使用した。塗料はいずれも「赤、青、緑、黄」の水性絵の具を使用した。障子紙いっぱいにダイナミックに模様を作って楽しむ児童の姿や、模様を何かに見立てて楽しむ姿、特定の道具や特定の色で楽しむ姿など、様々な児童の姿を観察することができた。

(5) 指導の実際

① 本時(第四次 第1時)の目標

作ってみたい模様ができることを意識して、模様づくりに必要な道具を選択し幟を作ることができる。

② 授業仮説

第三次までの経験から、児童が自ら作ってみたい模様を決定して取り組むことを期待し、次のような授業仮説をたてた。

既習の模様づくりを想起できるような作品や資料を提示するならば、作ってみたい模様を決定し、それに必要な道具を選択することができるであろう。

③ 目標行動と教師の支援

目 標 行 動	教 師 の 支 援	児 童
模様の違いを比較し、作ってみたい模様に必要な道具を選択できる。	◎楽しかった模様づくりの活動や使ってみたい道具について尋ねる。 ○模様に必要な道具を確認する。	④ ⑦
模様のできあがりイメージして、必要な道具を選択できる。	◎活動の違いによりできあがる模様の違いができることを確認する。	⑤ ⑥

	○模様に必要な道具を確認する。 ○幟のイメージについて尋ねる。	⑧
--	------------------------------------	---

④ 準備物

和紙、絵の具、バット、野菜各種、ローラー各種、霧吹き各種、毛筆セット

⑤ 学習の展開

学習過程	予想される活動	教師の働きかけ	
		全体	個別
1 始まりのあいさつをする		1・学習の始まりとして位置づける。	1・本日の当番児童に意識づける。
2 既習の模様づくりを振り返る	○前時までに作成した模様の中から、印象深かった模様を想起することができるであろう (児④⑤⑥⑧) ○前時までに作成した模様を、想起することが難しいと思われる。(児⑦)	2・模様づくりの学習を生かして、幟を作ることを告げる。 ◎前時までに取り組んだ模様が想起できる資料を提示する。	◎児⑤⑥⑧には、前時までの学習が想起できるような言葉かけをす ◎児④⑦には、前時までに作成した模様を提示する。
3 道具を選ぶ	○道具の違いによる模様の違いがわかり、必要な道具を選択することができるであろう。(児⑤⑥⑧) ○作りたい模様から道具を選択することができるであろう (児④) ○作りたい模様と道具が結びついていないと思われる。(児⑦)	3・模様づくりの技法として3種類あることを確認する。 ◎それぞれの技法の中にも、いくつかの道具があることを確認し、作りたい模様に応じて選択するよう言葉かけをする。	3◎児⑤⑥⑧には、道具の違いによる模様の違いについて確認する。 ◎児④には、模様に必要な道具についての確認をする。 ◎児⑦には、模様と道具が関連づく資料を提示する。
4 模様を作る	○できあがりイメージしながら模様づくりに取り組むであろう。(児⑤⑥⑧) ○技法を楽しみながら模様づくりに取り組むであろう。(児④⑦)	4・各児の創意で模様づくりに取り組めるよう支援する。	4◎児⑤⑥⑧には、幟のイメージについて問いかける。 ・児④⑦には、作成している模様の完成までの見通しとイメージがもてるような言葉かけをする ・全児童に対し、作成している模様のおもしろさについて評価する。
5 幟を仕上げる	○言葉による指示だけ	5・模様ができあ	5・児⑦には、見本

<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 100px; margin: 0 auto; display: flex; flex-direction: column; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> </div>	<p>で文字を書くことが難しいと思われる。 (児⑦) ○幟の完成を喜ぶであろう。 (全児)</p>	<p>がった児童から、和紙に字を書くようにする。 ・できあがった作品を幟にし、おまつりへの意欲が高まるようにする。</p>	<p>となる文字を提示する。</p>
<p>6 終わりのあいさつをする</p>		<p>6・学習の終わりとして位置づける。</p>	<p>6・本日の当番児童に意識づける。</p>

⑥ 児童の選択と意味づけ

④	吹き付け	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具を霧状にとぼして模様づけする活動の楽しさを感じた。 ・立って活動をするため動きやすく、友だちとの関わりが最も楽しめると感じた。
⑤	吹き付け	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具を霧状に跳ばして模様づけする活動に楽しさを感じた。 ・3つの道具の内、霧吹きに最も興味を感じた。
⑥	吹き付け	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具を霧状にとぼして模様づけする活動の楽しさを感じた。 ・立って活動をするため動きやすく、友だちとの関わりが最も楽しめると感じた。
⑦	スタンプング	<ul style="list-style-type: none"> ・スタンプをする活動に楽しさを感じた。 ・床に座って活動をするため、落ち着くことができた。 ・道具（野菜）の中でも、ゴボウの握り具合や感触に興味を感じた。
⑧	ローラー	<ul style="list-style-type: none"> ・ローラーを転がして模様づけする活動の楽しさを感じた。 ・3つの道具の内、ローラーに最も興味を感じた。

3 考察

児童が選択をし、決定する活動は、本実践においては積極的なものであったと考える。模様をつくるいくつかの経験から、自分で判断をして決定していくことができた。しかし、児童にとって楽しい活動の中から選択をし、決定するという極めて肯定的な場しか提示することができなかった。したくないことや嫌いなことの中から選択、決定していく場が、本学級の児童の実態から考えると用意されていてもよかったように思われる。これからの（将来にわたる）生活場面においては、自分にとって好ましいものばかりであるとは限らない。また、そのような中から、選択を迫られる場面も出てくるであろうと予想される。そんな時、いかに自分の思いを積極的に妥協することができるかが必要になってくると思われる。子どもの未来を考えると、あらゆる場を想定し、経験を蓄積していけるような工夫が必要であると思う。

(本校教員)